

3月1日現在の就職活動状況

大学の後期試験が終了し春休みに入る2月は、学生が就職活動に集中する時期である。3月1日現在の就活モニターの就職活動状況について調査を行い、2月末までの動きを分析した。

1. 活動の中心としている企業の規模

- 「業界トップ/大手企業」志向が43.8%。前年とほぼ同水準
- 学生が考える「中小企業」の従業員数は、平均550名。国の基準と大きく乖離

2. 3月1日現在のエントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は73.5社。前年同期より微減

3. セミナー・説明会への参加状況

- 一人あたりの平均参加社数は44.7社。エントリーと同様に前年同期より微減で推移

4. オンラインセミナーの視聴状況

- 視聴経験者は68.1%。視聴社数は平均6社

5. エントリーシートの提出状況

- エントリーシートの平均提出社数は11.8社。1カ月で6.0社増加
- 1社あたりの記入時間、志望度「高い」場合は4.8時間、「低い」場合は1.7時間

6. 選考試験への参加状況

- 受験社数は筆記7.2社、面接3.2社、集団討論2.5社

7. 3月1日現在の内定状況

- 内定率は5.8%。前年同期(5.5%)より微増。「情報処理・ソフトウェア」が最多

8. 大学の就職ガイダンス参加状況

- ガイダンス参加経験者は70.7%。平均回数は5.5回。「スタートアップ講座」が最多

9. 就職活動で困っていること

- 「エントリーシート」56.0%、「面接試験対策」53.5%の順。時間不足が主な理由

10. 就職活動の難易度

- 「厳しい」が年々減少し59.5%。但し、先月調査よりは10ポイント増加

《調査概要》

調査対象 : 2015年3月卒業予定の全国の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
 回答数 : 1,428人(文系男子467人、文系女子382人、理系男子394人、理系女子185人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2014年3月1日~5日
 サンプルング : 日経就職ナビ2015就職活動モニター

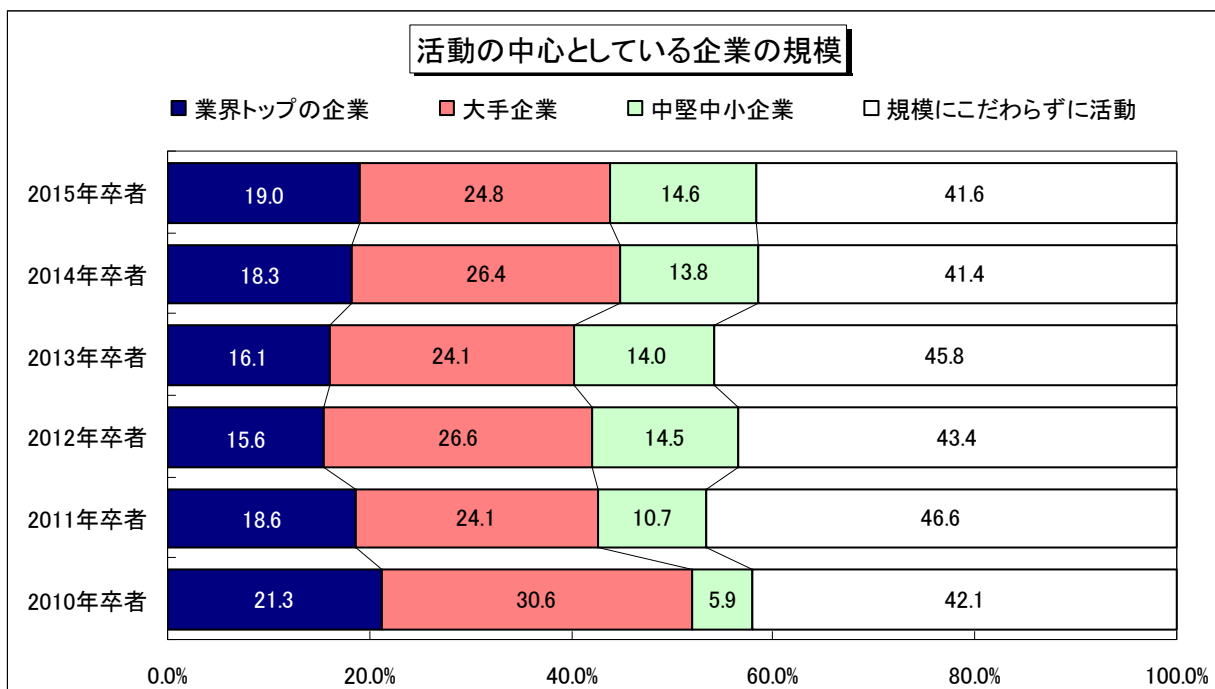
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. 活動の中心としている企業の規模

就職活動の中心としている企業規模を聞いたところ、「業界トップの企業」19.0%、「大手企業」24.8%で、いわゆる「大手ねらい」の学生の合計は 43.8%と 4 割強。前年調査 (44.7%) とほぼ同率だった。弊社のこれまで調査等で、今期は企業の採用意欲がここ数年で最も高く、学生側も就職戦線を楽観視する傾向が出ていることから、大手志向に何らかの変化が生じているのではないかと注目していたが、前年と大きな変化は見られなかった。

「規模にこだわらずに活動」という回答が依然として最も多く、就職活動の軸を企業規模に置いていない層が 41.6%と 4 割を占める。「中堅中小企業を中心に活動」する学生は 14.6%と前年より微増した。ただし、「中堅中小」の範囲の捉え方については注意が必要であり、それについては次ページで確認したい。

文理男女別に見ると、女子よりも男子、文系よりも理系で大手志向が強く、この傾向は毎年変化ない。

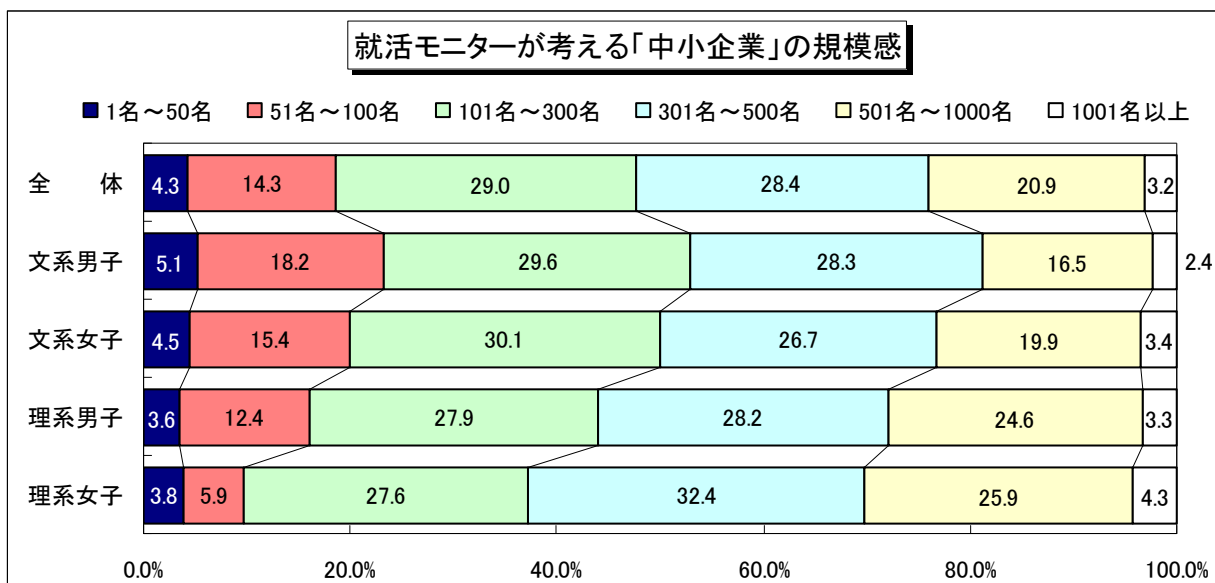


	(%)			
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
業界トップの企業を中心に活動	23.6	11.5	23.1	14.1
大手企業を中心に活動	21.4	25.1	26.6	28.6
中堅中小企業を中心に活動	15.4	18.1	11.4	12.4
規模にこだわらずに活動	39.6	45.3	38.8	44.9

今回初めて「従業員数が何名くらいまでは中小企業だと思うか」と尋ね、従業員数を入力してもらったことで、学生の考える「中小企業」の規模感を探ってみた。

平均すると「550.9名」となり、国の定める中小企業の範囲(※下表)よりもかなり大きいことが分かる。分布を出してみると、最も回答が多かったのが「101名～300名」で29.0%だが、「501名～1000名」20.9%、「1001名以上」3.2%と、あわせて24.1%が、500名を超える規模の企業を中小企業と捉えていた。

文系より理系、男子より女子で、中小企業と見做す範囲が大きかった。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
平均	550.9	451.7	639.5	567.6	582.9

■活動の中心とする企業規模について

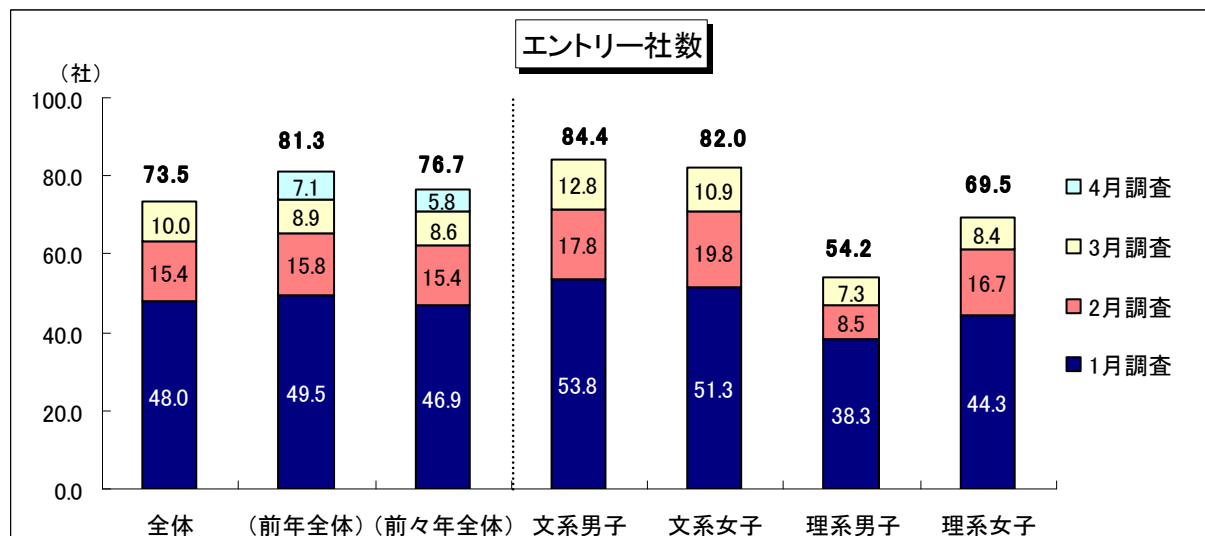
- 大手か中小かベンチャーかにかかわらず、業界で長く生き残れる企業に魅力を感じるし、また業界トップの企業には魅力的な人が集まってきているように感じる。 <文系男子>
- 特にこだわりはなかったが、「知ってる企業に…」と思ったら結果的に大手に集中してしまった。 <文系女子>
- 大手企業で働いているということ自体が自分のステータスとなり、婚活など働く以外のことでも役に立つと考えている。 <理系男子>
- 出来れば色々な職務に携わりたいので、あまり大きな企業ではなく中小企業にはいたいと思っている。 <文系男子>
- 女性で一生働いていきたいと考えた時に、一般職で産後も復帰できる環境の整った職場がいいと思った。大企業は中小企業と比較すると、福利厚生が整っている割合が高い。 <文系女子>
- 規模よりも業務内容や社風、勤務地を重視する。 <理系女子>
- 大企業には大企業の、中小には中小の魅力がある。それよりは事業内容に注目。 <理系男子>
- 規模に縛られると優良企業を見落とす可能性がある。 <文系男子>

業種分類	中小企業基本法の定義
製造業その他	資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社、又は、常時使用する従業員の数が300人以下の会社及び個人
卸売業	資本金の額又は出資の総額が1億円以下の会社、又は、常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人
小売業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社、又は、常時使用する従業員の数が50人以下の会社及び個人
サービス業	資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社、又は、常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人

(出典) 中小企業庁ホームページより抜粋(一部例外あり)

2. 3月1日現在のエントリー状況

3月1日現在、企業への平均エントリー社数は73.5社。先月調査(63.4社)からの1カ月間の増え幅は10.1社。今期は1月調査以降、対前年比微増で推移しているが、この1カ月の増え幅は前年実績(8.9社)よりやや多く、新たな企業を探そうという意欲を感じさせる。

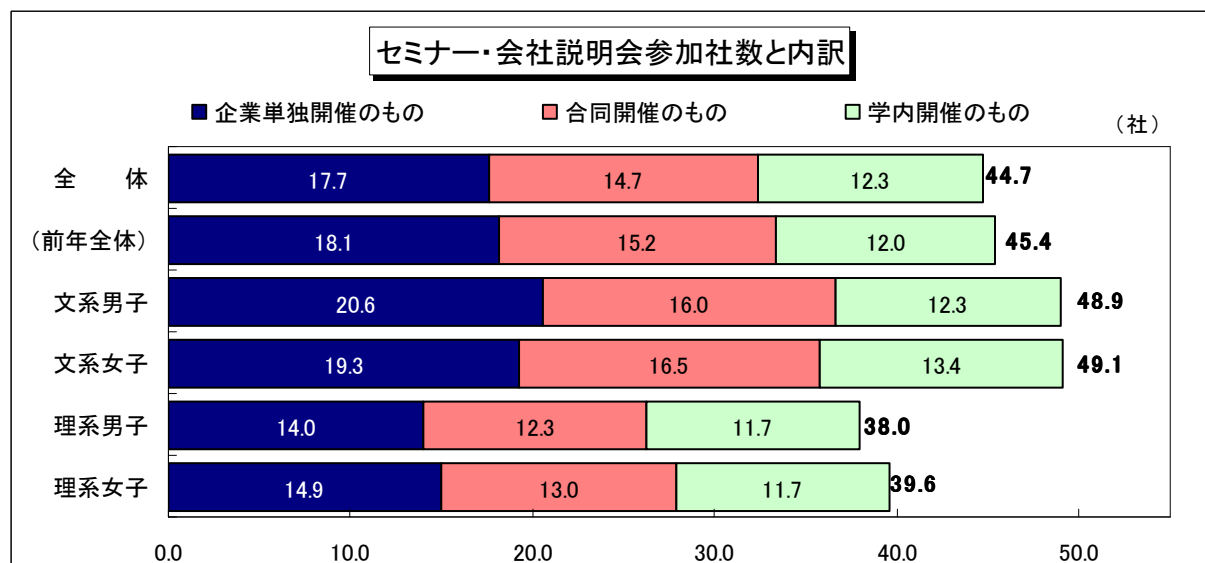


エントリー社数の内訳/平均

	(社)					
	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト経由でのエントリー	56.0	56.2	62.5	64.3	41.4	54.0
企業ホームページからのエントリー	16.1	16.8	19.2	16.6	12.2	15.2
その他のルートでのエントリー	1.4	1.1	1.7	1.0	1.6	1.2

3. セミナー・説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は44.7社。エントリー同様に、前年同期(45.4社)より減少しているが、微減にとどまっている。

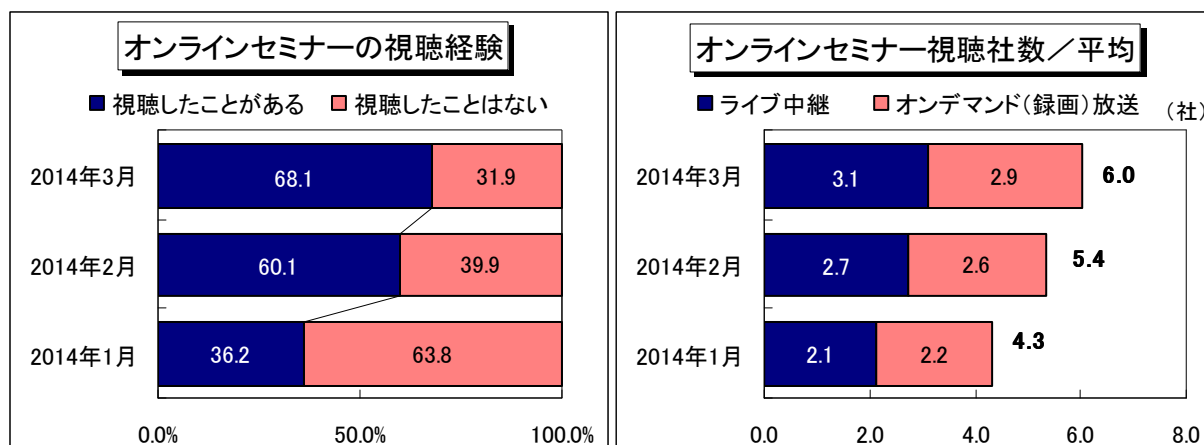


4. オンラインセミナーの視聴状況

3 月 1 日現在、オンラインセミナー (WEB セミナー) を「視聴したことがある」という学生は 68.1%と 7 割に迫る。1 月時点では 36.2%と 4 割を下回っていたが、月を追うごとに視聴経験者は確実に増え、企業研究のツールとして活用が進んでいる様子が分かる。平均視聴社数は、ライブ中継 3.1 社、オンデマンド (録画) 放送 2.9 社とほぼ同数。

オンラインセミナーの視聴理由を尋ね、地域別に表にまとめてみた。全体で最も多いのは「会場に行く必要がなく交通費がかからない」で 66.9%。これを地域別に見ると、「関東」が 58.5%と 6 割未満であるのに対し、「九州・沖縄」80.5%、「東北」77.6%などと差が付いている。地域差が最も顕著なのは「遠隔地でも視聴できる」で、最も高い「中国・四国」75.9%と、最も低い「関東」24.2%とで約 3 倍の差が見られる。

オンラインセミナーは、リアルセミナーの開催が少ない地方対策として機能する側面が強く、地方の大学に通う学生側も積極的に活用している。



オンラインセミナーの視聴理由(複数回答)

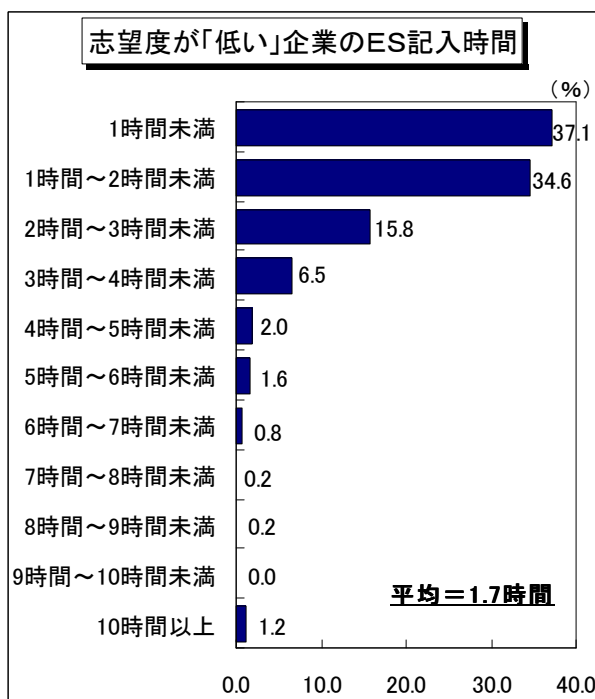
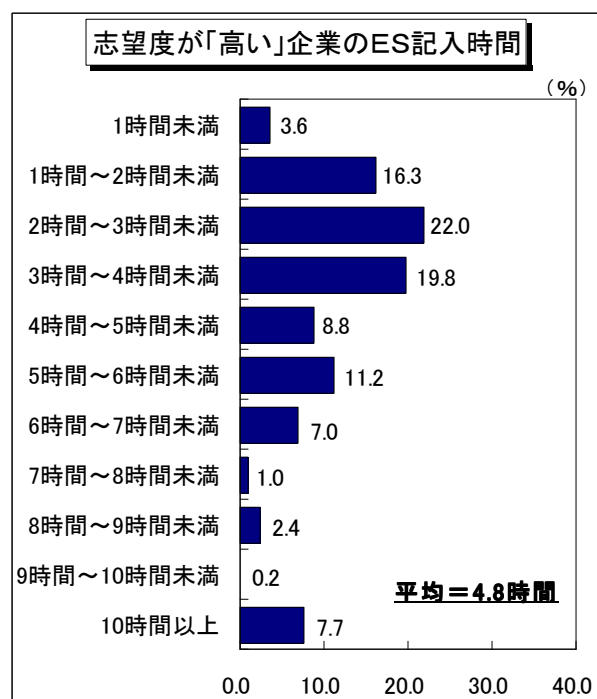
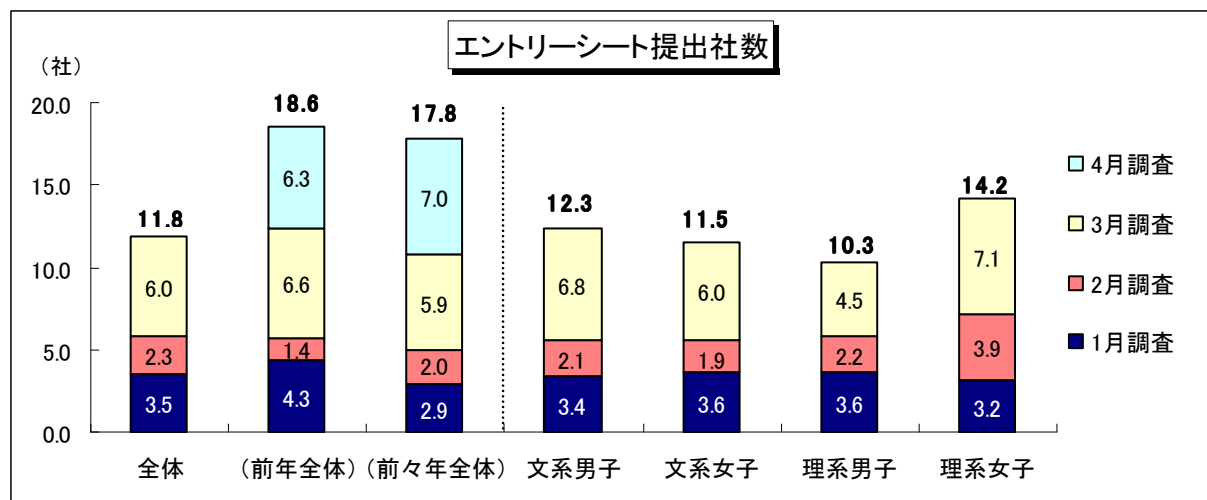
	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
会場に行く必要がなく交通費がかからない	66.9	68.3	77.6	58.5	71.9	70.0	73.3	80.5
気軽に視聴できる	57.8	63.4	69.0	55.3	60.3	57.1	50.0	63.6
遠隔地でも視聴できる	43.4	73.2	75.9	24.2	62.0	45.2	58.3	58.4
録画されたものをいつでも視聴できる	29.2	24.4	32.8	30.4	29.8	29.5	20.0	28.6
オンラインでしか実施されないセミナーだった	24.0	26.8	15.5	25.9	21.5	27.1	15.0	20.8
より深く企業研究をするため (ES、面接対策)	17.2	14.6	20.7	18.5	19.0	11.9	23.3	15.6
リアルセミナーに参加できなかったから	16.9	34.1	22.4	15.8	18.2	13.3	18.3	15.6
オンラインセミナーの視聴が必須だった	16.4	26.8	10.3	18.3	16.5	14.8	8.3	15.6
企業セミナーの予習・復習のため	13.1	17.1	15.5	15.3	9.9	11.0	10.0	10.4
企業からぜひ見るように言われた	12.9	14.6	5.2	15.8	8.3	12.4	11.7	11.7
チャット機能を利用して企業に質問ができる	10.7	26.8	13.8	8.9	9.9	8.6	15.0	13.0
12月より前 (解禁前) の情報収集として	4.6	4.9	6.9	3.5	6.6	5.2	1.7	6.5
その他	0.7	0.0	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0	0.0

5. エントリーシートの提出状況

3 月 1 日現在で、企業にエントリーシートを提出した学生は全体で 91.9%。先月調査 (79.1%) からさらに約 13 ポイント増え、9 割を超えた。一人あたりの平均提出社数は 11.8 社。先月調査から 6.0 社増え、この 1 カ月で大きく伸びた。但し、前年同期調査よりはやや少ない水準だ。

学生は 1 社のエントリーシートを仕上げるのに、どのくらいの時間を掛けているのか。志望度の高い企業の場合と低い企業の場合とに分けて、それぞれ掛かった時間を回答してもらったところ、志望度の高低により大きな差が表れた。志望度が「高い」企業のボリュームゾーンは「2 時間～4 時間未満」であるのに対し、「低い」企業では「1 時間未満」が最も多く、2 時間未満が全体の 7 割以上を占める。平均時間も、志望度が「高い」企業の 4.8 時間に対し、「低い」企業は 1.7 時間と 3 時間以上もの差がついている。志望度によって時間の掛け方を使い分けている様子が分かる。

なお、志望度に関わらず、文系より理系、男子より女子で平均時間は長くなる傾向が見られた。



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
志望度が「高い」企業の記入時間／平均	4.8	3.9	5.4	4.5	6.5
志望度が「低い」企業の記入時間／平均	1.7	1.2	1.9	1.6	2.7

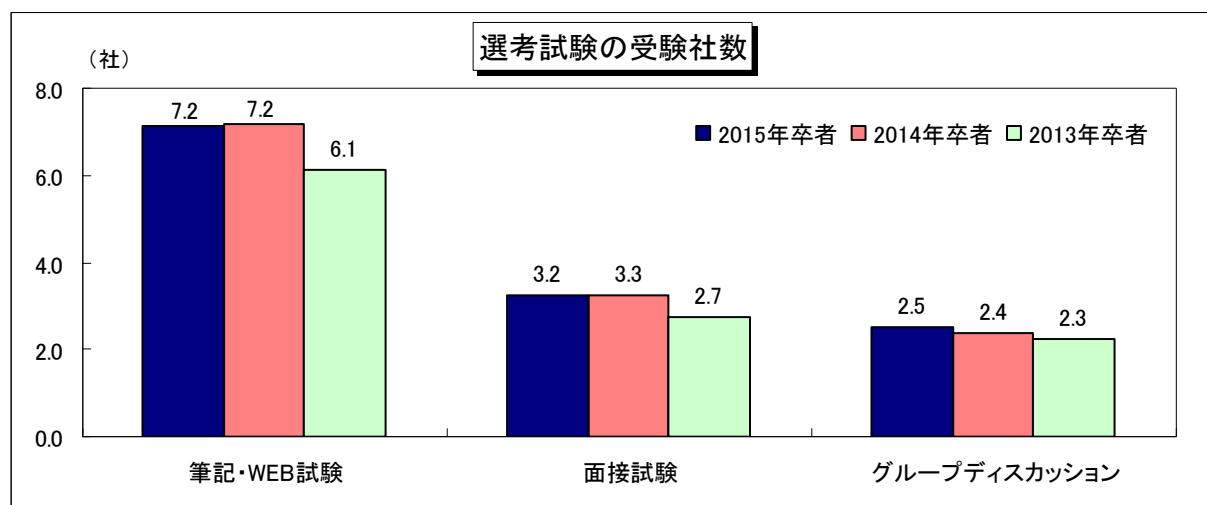
6. 選考試験への参加状況

選考試験受験者は、筆記・WEB 試験で 9 割、面接試験で 7 割を超えている。面接経験者の割合が前年同期よりやや増え、前倒しの傾向がうかがえる。ただ、一人あたりの面接受験社数は、前年同期と同水準にとどまっている。筆記・WEB 試験の先月調査の社数は 3.7 社だったので、およそ倍増したが、面接試験の 1 カ月の増え幅は 1.0 社で、まだ多くの企業で面接を控えている様子が見られる。

選考試験の受験状況

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB 試験を受験した	90.0	90.9	91.6	91.6	85.5	91.9
面接試験を受験した	71.6	67.8	71.3	74.3	67.5	75.1
グループディスカッションを受験した	58.8	58.4	63.8	62.0	50.5	57.3

(%)



7. 3月1日現在の内定状況

3月1日現在の内定状況を聞いたところ、すでに内定を手に入れているという学生は全体の 5.8% だった。前年の 5.5% から微増したが、まだ一部の学生に限られる。

少ないサンプルではあるが、内定を得た業界は「情報処理・ソフトウェア」「情報・インターネットサービス」「調査・コンサルタント」「建設・住宅・不動産」などが比較的多い。就職戦線はまだ始まったばかりであり、内定取得者の 86.7% が活動を継続していると回答した。

3月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

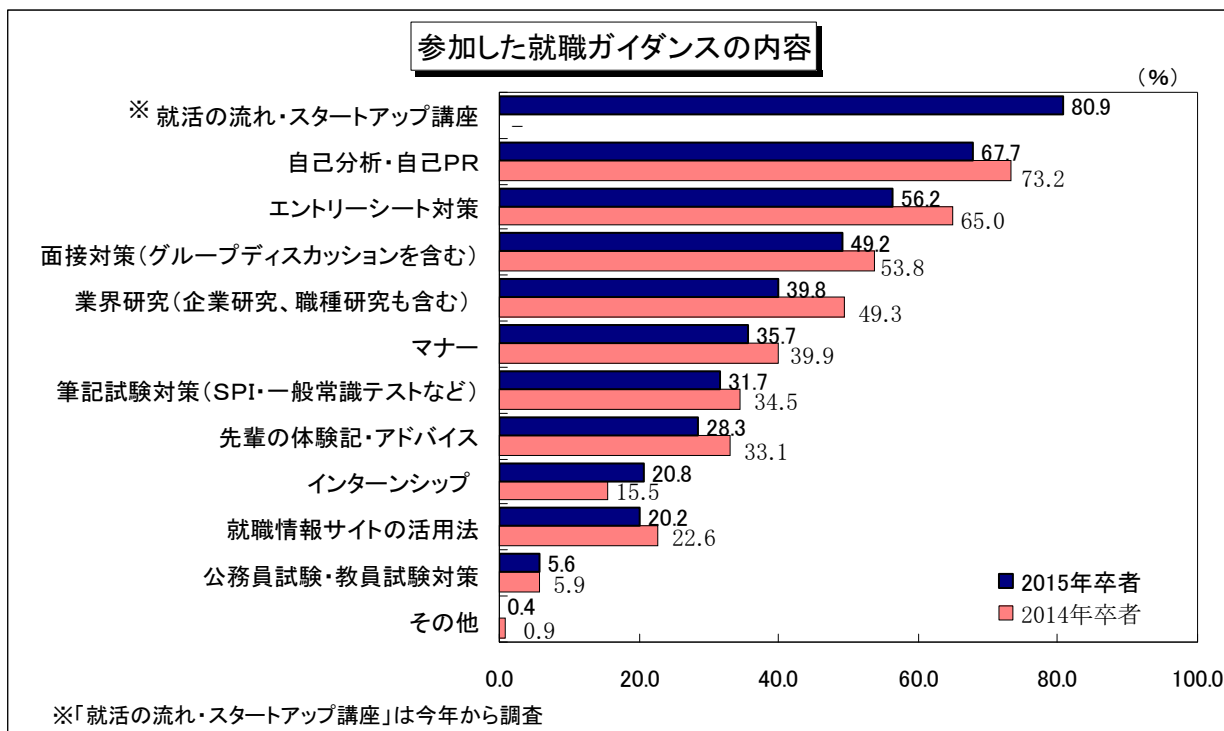
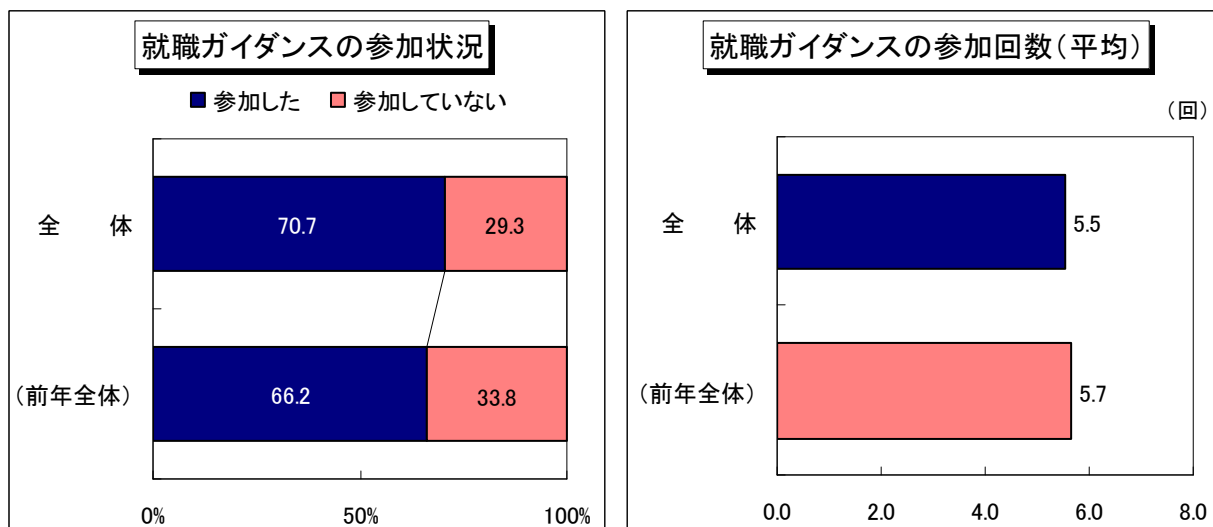
(%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定有り	5.8 (5.5)	6.6 (6.2)	5.0 (4.2)	5.8 (5.9)	5.4 (5.9)	
内定なし	94.2 (94.5)	93.4 (93.8)	95.0 (95.8)	94.2 (94.1)	94.6 (94.1)	
内定社数 (平均/社)	1.2 (1.2)	1.3 (1.2)	1.1 (1.1)	1.3 (1.3)	1.0 (1.2)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	10.8 (9.3)	0.0 (3.6)	5.3 (0.0)	26.1 (22.7)	20.0 (11.1)
	活動は終了したが複数内定保持	2.4 (1.3)	0.0 (3.6)	5.3 (0.0)	4.3 (0.0)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (1.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (11.1)
	就職活動継続	86.7 (88.0)	100.0 (92.9)	89.5 (100.0)	69.6 (77.3)	80.0 (77.8)

8. 大学の就職ガイダンス参加状況

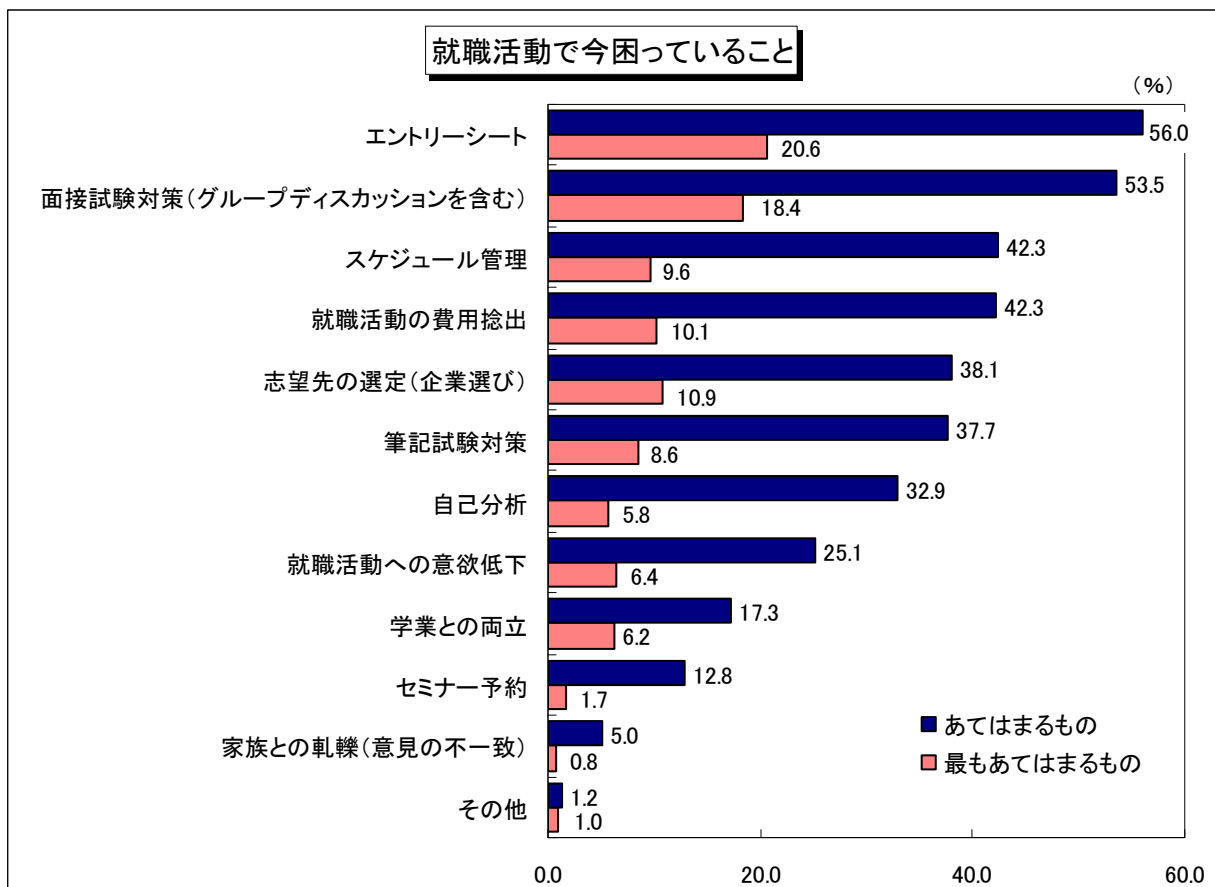
3月1日の時点で、大学の就職ガイダンスの参加経験者は全体の70.7%。前年調査(66.2%)より4.5ポイント多い。一方、平均参加回数は5.5回と、前年(5.7回)を僅かに下回った。

ガイダンス参加経験のある学生にどのような内容のガイダンスに参加したのかを尋ねたところ、「就活の流れ・スタートアップ講座」が80.9%で最も多かった。今年からこの項目を選択肢に加えたことで、他の項目が少しずつポイントを下げているが、中でも「業界研究(企業研究、職種研究も含む)」が最も減少が目立つ。一方で、唯一ポイントを上げているのが「インターンシップ」のガイダンスで、大学が力を入れていることもあるが、学生側の意識も高かったと言える。



9. 就職活動で困っていること

本格的な選考シーズンを間近に控え、多くの学生が多忙を極めるこの時期、どんなことに困っているのかを尋ねた。最も多いのが「エントリーシート」で、56.0%と 6 割近くに上るが、提出期限が迫っているという時節柄もあり、多く学生が選んだのだろう。また、6 ページで見たように、志望度の高い企業には、より多くの時間を費やして仕上げているという事情も影響しているだろう。僅差で「面接試験対策」53.5%が続く。「エントリーシート作成やセミナーなどに追われて、面接対策まで手が回らない」という声が目立つ。「筆記試験対策」は 37.7%が選んでいる。「就職活動への意欲低下」を 25.1%と 4 人に 1 人が選んでいるが、4 月を前に早くも息切れをしていると捉えると、今後は懸念される。



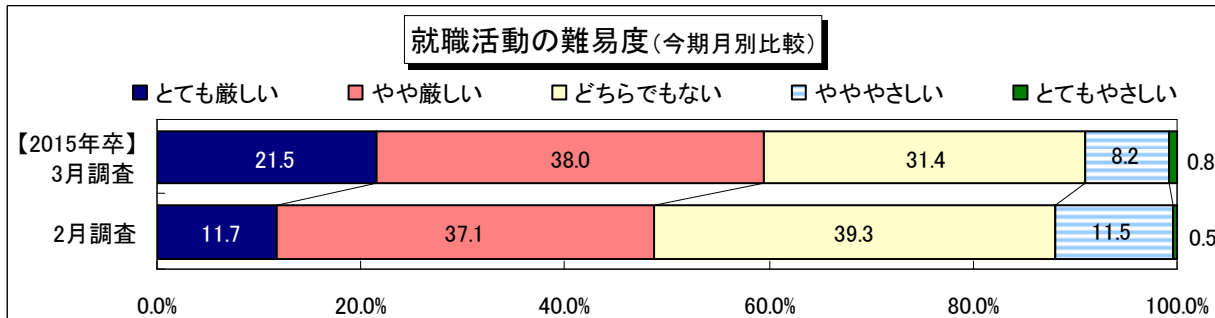
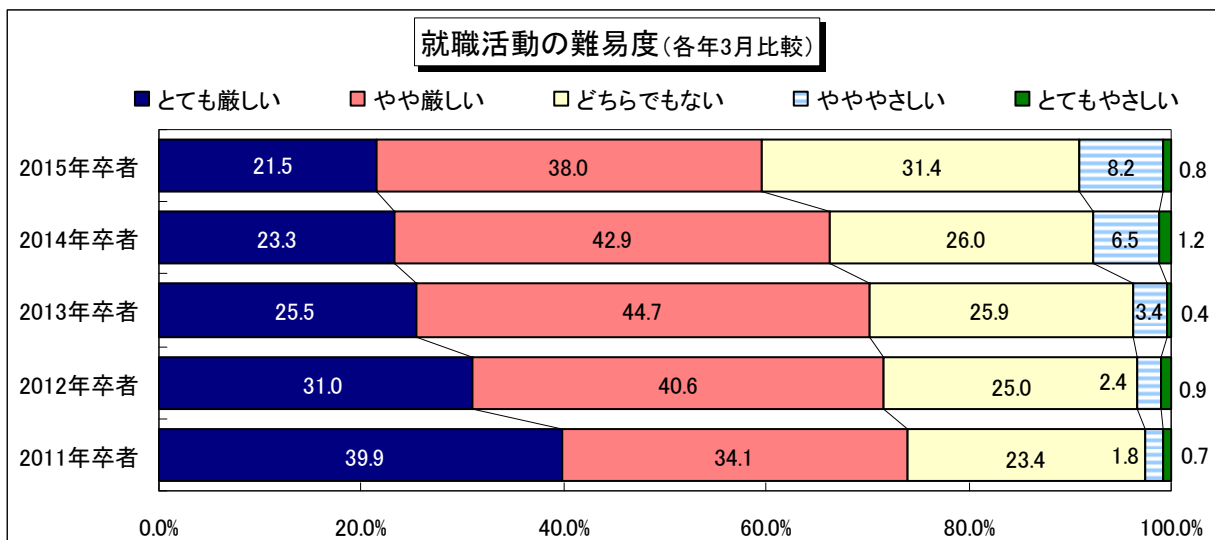
■就職活動で困っていること

- 一社のエントリーシートを提出するために多くの時間が必要であるし、会社説明会などのセミナーと並行しながら行う必要があるため、最も時間に追われている。 <文系男子>
- 練習のために受けている企業が少ないので不安。本番までに慣れることに間に合うだろうかという思いがある。 <文系女子>
- 複数の企業にエントリーすると、研究と両立が難しい。さらに、学会に被ると、スケジュール管理が出来いても両立が極めて難しい。教授が、就活に対して理解がないと、就活をすること自体が難しい。 <理系男子>
- 日程が多々かぶるため、優先順位を瞬時に判断することが求められる点で苦勞している。 <文系男子>
- 毎日説明会の連続で時間がなく、それが 2 カ月近く続いているのでモチベーションが下がりがつつある。また、早い段階の選考で落とされると、実力不足とはいえ就職活動の理不尽さも感じるし不安になる。 <文系男子>
- 説明を聞けば聞くほどどの企業も魅力的に感じ、なかなか企業選びが進まない。 <文系女子>

10. 就職活動の難易度

自身の就職活動を「厳しい」と感じている学生は、「とても厳しい」21.5%、「やや厳しい」38.0%を合計して59.5%で、「やさしい」の9.0%を大きく上回る。しかし、経年で比較すると（毎年3月調査）、「厳しい」は5年前から毎年減少し、徐々に緩和されている。企業の採用意欲が旺盛であること、先輩たちの内定状況が改善したことなど、学生にとってプラスの要因が多い点が背景に挙げられる。ただ、先月実施した2月調査に比べると「厳しい」の割合は増えており、就職活動が進むにつれ、厳しさを実感する学生も増えている。

日本の今後の景気をどのように見ているかを尋ねると、「順調に拡大していく」5.1%、「緩やかながら拡大していく」52.3%と、約6割が景気拡大を予想した。



※「わからない」を除いてグラフ化

